



つづつづつ  
た!

ぼくの  
あいず

## ドライバーの皆様へ

横断歩道は、歩行者が道路を安全に渡るための「**命の架け橋**」です。

### 横断歩道は歩行者優先！

横断歩道の手前では、安全に停止できる速度で進行し、横断歩行者の有無を確認しましょう。横断歩行者がいれば必ず止まり、その通行を優先しましょう。

京都府では、幼児を中心に、横断時に「合図をする（渡る意思を伝える）」ことを指導します。合図をする子供を見かけたら、温かい心で見守ってください。



横断歩道で歩行者を

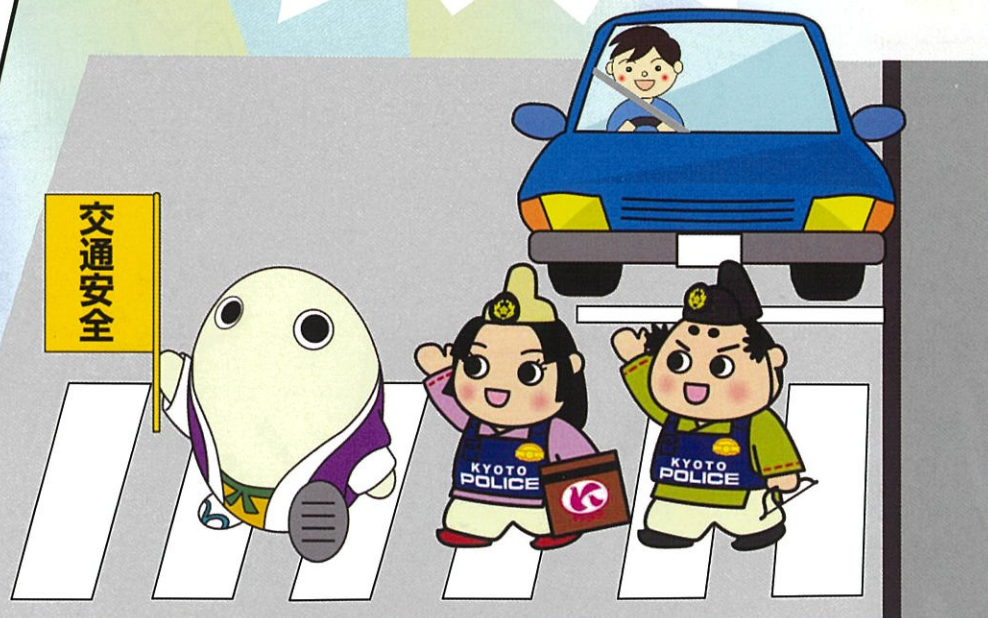
優先することは

ルールです！



横断歩道は  
歩行者優先

交通安全



## 交通違反点数と反則金

### 横断歩道等における歩行者等の優先

- 歩行者（自転車）が横断歩道（自転車横断帯）を横断しているときや、横断しようとしているときは、横断歩道（自転車横断帯）の直前（停止線が設けられているときは、その停止線の直前）で一時停止し、その通行を妨げないようにしなければなりません。

（道路交通法第38条第1項一部抜粋）

罰則

3月以下の懲役又は  
5万円以下の罰金

点数

2点

反則金

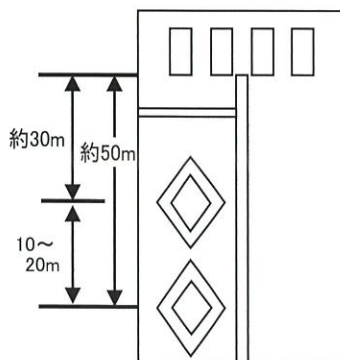
大型	12,000円	普通	9,000円
二輪	7,000円	原付	6,000円

## 標識や標示に注意しましょう！

〈道路標識〉



〈道路標示〉



「◇」は、この先に横断歩道があることを示す道路標示です。「◇」を確認したら、横断歩道の手前で安全に停止できる速度で進行しましょう。



# 横断歩道

では

渡りたい

あいつ



で



手のひらと

目で

# 安全横断!

横断歩道を渡るときに、運転者に「渡りたい意思」を伝えるには、「合図」をすることが効果的です。しかし、例えば子供に、単に「手をあげる」ことだけを指導すれば、「手をあげさえすれば安全だ」と思い込んだり、安全確認（「止まる」「見る」「待つ」）が疎かになり、かえって危険な横断になりかねません。横断歩道の安全な渡り方について、日常生活の中で時間をかけて、子供に繰り返し教えましょう。

## 横断歩道の安全な渡り方

止まって



道路に飛び出さない

よく見て



周りの安全をよく確認する

大事

車両を運転する時には、横断歩道の人や合図を見逃さないで!



合図して車が止まるのを待つ



運転者に手のひらと顔を向けて合図する

止まった運転者とアイコンタクト(確認)



運転者と目を合わせる

走らずまっすぐ渡る

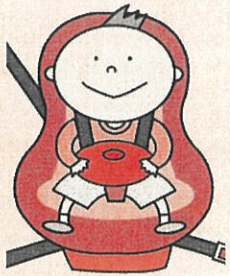


他の車やバイク、自転車に注意する



# 子どもを守るのは大人の責任です！

## 車に乗せるときは…



チャイルドシートは正しく取り付けることで、本当の効果が発揮されます。取付け時には、取扱い説明書などをよく確認するとともに、定期的に点検するようにしましょう。

シートベルトは、概ね 140 cm以上の身長を想定して設計されています。

シートベルトが、安全に使用できる身長になるまでは、チャイルドシート（ジュニアシート）を使用しましょう。



## 自転車を利用するときには…

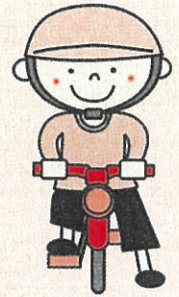


自転車は転倒しやすい乗り物です。

大切な頭部を守るために、自転車用ヘルメットを正しく使用するとともに、シートベルトを確実に締めましょう。

自転車事故により、死亡したり後遺障害が残ったりする主な原因は、「頭部損傷」によるものです。

サイズの合ったヘルメットを着用させ、あごひもをしっかり締めるよう指導しましょう。



## 外で歩くときは…



「危ない！」と感じた時に子どもを守ることができなければ、「保護している」とは言えません。

道路や、駐車場などでは、手をつなぎ、一人歩きさせないようにしましょう。

子どもは、抽象的な言葉かけでは伝わらないことがあります。「気を付けてね！」だけでなく、「何に気を付けるのか」「気を付けるためには何をするのか」など、具体的に指導しましょう。



「気が狂いそうになる思いで日々を過ごしております。」

これは、交通事故でお子さんを亡くされたご遺族（母親）の言葉です。

子ども達を交通事故から守るために、できることはたくさんあるはずですよ。

どうか、保護者の皆様、この言葉の重みを、今一度考えてみてください。

子ども達にとって、保護者の影響力は大変大きいものです。子ども達を交通事故から守ることはもちろん、**自身が子ども達の見本となるような行動**を心がけましょう。